

2012年3月期 第1四半期 決算発表
主な質疑応答

(為替について)

Q: 円高が一段と進んでいるが、今後の対応は？ また1円変動による利益影響額は？

A: 現在の円高水準は一企業による努力の限界を超えています、手をこまねている訳ではなく、あらゆる領域でのコスト改善を一層加速させてまいります。また、現在、準備を進めている海外調達比率の引き上げや外貨建て取引の拡大などの施策も、スピード感をもって順次実施いたします。

一方で、経常利益以下への影響を最小限に抑えるために、為替予約も行っています。

商品面では、下期からはSKYACTIV 技術搭載の新商品導入による台数増加と収益への貢献も期待できると考えます。

また、1円変動による年間の営業利益への影響額は、おおむねUSドルで25億円、ユーロで12億円と考えています。

(新世代デミオについて)

Q: SKYACTIV 搭載の新世代デミオの販売状況を教えてください。

A: 予約受注を開始した6月9日から発売日の6月30日までの約20日間で、月間販売計画を上回る6,500台の受注をいただいております。SKYACTIV エンジンの搭載比率も計画の6割を上回り、順調に推移しております。その後の販売状況につきましては、8月初旬にご報告する予定です。

(震災後の生産状況)

Q: 東日本大震災による生産への影響と、現時点の工場の状況について教えてください。

A: 3月11日に発生した大震災の直後は、一時、国内工場の操業停止や限定的な生産を余儀なくされましたが、第1四半期の後半からは本格安定生産を再開し、現在のところ、定常操業を行っています。現時点、当初見通し通りの生産台数を計画していますが、可能な限り、前倒しを図っていきたいと考えています。また、海外の生産拠点についても、現在は定常操業を行っています。

(海外主要市場の動向について)

Q: 北米、欧州、中国など海外の主要市場の動向について、教えてください。

A: 米国の財政問題などによる自動車市場への影響は懸念していますが、北米全体では比較的堅調な需要を維持しています。ロシアを除く欧州は厳しい状況が続くと見えています。また、競争が激化している中国も厳しい状況が続くと思われませんが、需要は前年同期比でマイナスとなるレベルまでの悪化は見込んでいません。

当社の取り組みとして、国内向けの新世代デミオに引き続き、下期にはSKYACTIV 搭載の新商品を主要市場に導入し、台数・構成の改善を図ると共に、効果的なマーケティング活動を展開し、ショールームへの来客数を増し、販売増へ結びつけてまいります。